

画廊「季」で八九歳の絵描き

松本さんにあう

九月一五日、新潟市松山の小さな美術館「季（とき）」

で画家松本博さんのお話とチェロ演奏を聴きました。

松本さんは民主的美術運動の中心的な担い手です。

アンデパンタン展の活動を手掛けて今日にいたっています。当年八九歳、明治の最後の年岡山に生まれました。岡山の第六高等学校を卒業、当時上野美術学校といわれた今の芸大へ入学、そこで科学的な社会的な社会主義の思想に啓発されて、現実の社会に身を投じ労働の中でその思想の正しさを、検証しつつ、芸術は人間の幸せのためであると主張し、兵役を拒否し、治安維持法違反で敗戦の年まで刑務所で強制労働に服していました。

一見柔らかな優しいおじいさんそのものが語る戦前の美術運動の中で反戦平和の志を貫いてきたお話と数年前から始めたというチェロの演奏は集まった五〇人の心をゆさぶりました。

味岡弁護士夫人のやさしい伴奏にのったチェロ演奏

の最終曲目カザルスの『鳥』は思いをこめて引いていただけました。スペインのフランコのファシスト政権に反対して祖国を去り、反戦平和をつらぬいた彼と松本さんの姿が重なります。

小柄でひ弱にみえる松本さんは帝国憲法下の裁判官の前で「この日本の戦争は侵略戦争であり、天皇制は自由平等の精神に反している」と信念をのべ、治安維持法違反の罪で懲役の重労働に服し、生き抜いたのです。彼はあの時代の生証人として戦争に協力していった画家たちを批判し、小泉首相のいう「国のために死んでいった人たちに哀悼の意を表するのはあたりまえ」という言葉の欺瞞をきびしく指摘しました。

杉本さんとその弟子の野本歌子さんの絵画展は九月二九日まであります。高橋武昌先生の画廊「季」は大きな柱でくみだてられた二階までふきぬける天井をもつ日本の木造家屋のすてきなおうちの中にあります。

お二人の絵はとてもあたたかな絵です。ぜひ、ご覧になるといいと思います。「季」ではいろんな催しが次々とくまれています。お問い合わせの電話番号は次のとおりです。(〇二五―二七六―二四二三) (ほんだ)